

2022 年1月1日以降の実績

1号機

現時点での特記事項なし

2号機

・2号機の原子炉注水設備において、地下水流入量の抑制による建屋滞留水発生量の減少に伴い、淡水生成可能量も減少していくことから、片系による原子炉注水量 2.5m³/h から片系による原子炉注水量 1.7m³/h への注水量低減操作を以下のとおり行う。

[原子炉注水量変更実績]

(1月13日午後1時32分)

炉心スプレイ系原子炉注水量：0 m³/h → 1.7 m³/h

給水系原子炉注水量：2.5 m³/h → 0 m³/h

[原子炉注水量変更予定]

(2月9日)

炉心スプレイ系原子炉注水量：1.7 m³/h → 0 m³/h

給水系原子炉注水量：0 m³/h → 1.7 m³/h

3号機

・3号機原子炉注水量低減(STEP2)の試運用として11月10日より、炉心スプレイ系および給水系にて、それぞれ注水量 1.7m³/h の単独注水を継続実施し、原子炉圧力容器底部温度、原子炉格納容器温度および原子炉格納容器ガス管理設備のダスト濃度を監視し、安全上、問題が無いことを確認した。

これに伴い、1月6日より試運用を終了し、本運用を開始。

・3号機の原子炉注水設備タービン建屋内炉注水系における、低流量による注水試験に伴い、3号機の原子炉注水量の変更を行う。

なお、試験中も CST 炉注水系による原子炉注水は継続する。

[原子炉注水量変更予定]

(1月17日)

タービン建屋内炉注水系原子炉注水量：0 m³/h → 2.0 m³/h → 0 m³/h

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

現時点での特記事項なし

6号機

現時点での特記事項なし

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4, H6エアータンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

・1月6日午前11時40分、運転中の増設多核種除去設備(C)の高性能容器の排気ラインに設置している連続ダストモニタにおいて、放射能濃度高警報が、午前10時50分から午前11時3分の間、発生していたことをWEBカメラの映像にて確認。

このため、運転中の増設多核種除去設備(C)を午前11時56分循環待機とした。

なお、建屋内のエアモニタの警報は発生していない。

また、同時間帯でスラリー排出していないことを確認している。

ダストモニタのろ紙の放射能測定を実施したところ放射能高警報レベルの放射能濃度は検出されていない。

また、ダストモニタのデータを確認したところ、ろ紙送り直後のみ指示値が上昇していることから、ダストモニタの異常と判断した。

以上のことから、ダストモニタの交換を実施した。

今後、準備が整い次第、増設多核種除去設備(C)の運転を再開する。

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯水タンク G 1月1日午前10時1分～午後3時45分。排水量854m³
- ・一時貯水タンク H 1月2日午前10時48分～午後4時11分。排水量805m³
- ・一時貯水タンク J 1月3日午前10時39分～午後3時14分。排水量683m³
- ・一時貯水タンク K 1月4日午前9時54分～午後1時23分。排水量518m³
- ・一時貯水タンク C 1月5日午前10時16分～午後1時37分。排水量499m³
- ・一時貯水タンク D 1月6日午前11時38分～午後2時49分。排水量475m³
- ・一時貯水タンク E 1月7日午前10時14分～午後1時24分。排水量469m³
- ・一時貯水タンク F 1月8日午前10時18分～午後1時19分。排水量449m³
- ・一時貯水タンク G 1月9日午前10時23分～午後1時19分。排水量437m³
- ・一時貯水タンク H 1月10日午前9時53分～午後0時44分。排水量423m³
- ・一時貯水タンク J 1月11日午前10時12分～午後0時59分。排水量415m³
- ・一時貯水タンク K 1月12日午前9時52分～午後1時31分。排水量543m³
- ・一時貯水タンク L 1月13日午前10時49分～午後1時28分。排水量392m³
- ・一時貯水タンク C 1月14日午前9時44分～午後0時9分。排水量358m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯留タンクグループ 3 1月6日午前10時28分～午後5時56分。排水量2,044m³
- ・一時貯留タンクグループ 1 1月13日午前9時55分～午後5時2分。排水量1,942m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【窒素封入設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

現時点での特記事項なし

【けが人・体調不良者等】

現時点での特記事項なし

【その他】

・2021年11月19日午後0時49分頃、淡水化装置(RO3)近傍の関連施設内で作業していた当社社員2名の鼻腔周辺に汚染があることを確認。

状況は以下のとおり。

- ・退出モニタでの測定時刻:午後0時20分
- ・内部取込の可能性の判断時刻:午後1時44分
- ・作業場所:淡水化装置(RO3)近傍の関連施設内
- ・作業内容:凍結防止用ヒータ吸気ダクトの補修
- ・汚染状況:鼻腔内の汚染検査で汚染検出(バックグラウンド約60cpm)
 - ・約150cpm
 - ・約120cpm
- ・汚染箇所:鼻腔周辺

当該社員2名については、午後1時54分、除染により退域基準(4Bq/cm²)未満を満足したため、管理対象区域を退域。

また、入退域管理棟救急医療室の医師による問診により異常なしと診断され、午後2時26分、入退域管理棟救急医療室を退室。

なお、内部被ばく線量の評価については、下記の通り。

- ・ホールボディカウンタ測定を実施した結果、セシウム137は検出限界値未満。
- ・鼻腔内の汚染検査の結果より内部被ばくの可能性が否定できないことから、今後詳細な評価を実施する。
- ・なお、淡水化装置(RO3)近傍の関連施設内での作業後のダスト濃度を測定した結果から、内部被ばく線量を試算したところ、記録レベル(2mSv)未満。

内部被ばくの詳細評価の結果、預託実効線量は、2名とも記録レベル(2mSv)未満であった。

・1月6日午後0時48分頃、H4タンクエリアで作業していた協力企業作業員に顔面汚染が確認されたことから、内部取り込みのおそれがあると判断した。

- ・内部取込の可能性の判断時刻:午後0時48分
- ・作業件名:H4タンクエリア雨水タンクカバー修理

- ・汚染状況:鼻腔内の汚染検査で汚染検出(B.G.約 150cpm)
・約 1,200cpm

- ・汚染箇所:鼻周辺

当該作業員については、午後 1 時 58 分、除染により退域基準(4Bq/cm²)未満を満足したため、管理対象区域を退域している。

また、入退域管理棟救急医療室の医師による問診により異常なしと診断され、午後 4 時 4 分、入退域管理棟救急医療室を退室した。

なお、鼻腔内を採取した試料の分析結果から内部被ばく線量を評価した結果、記録レベル未満であることを確認した。